

私たちの「広」を  
誰もが「ほっと」する  
そんな「街」に



w a k o u k a i  
NEWS

臨時新年号

vol.55

2020  
New year

特集

## 「新年のご挨拶」

医療法人社団和恒会 理事長

織田 一衛

ふたば病院 院長

高見 浩

介護老人保健施設  
パナケイア 施設長

石井 孝二

ふたば病院 副院長  
兼 看護部長

川本 真弓

令和2年 行事予定





# 令和二年頭に当たり 一言ご挨拶申し上げます。



国は、「今後の超少子高齢化社会（二〇三五年には日本の人口の約三分の一が高齢者となる）」においても、必要な医療は保険診療で行われるべきであるという基本理念の下、国民皆保険を堅持し、国民の健康を守っていくために様々な施策を講じています。団塊の世代が全て後期高齢者となる二〇二五年に向けて、財政的な規律を保ちながら効率的で持続可能な社会保障の仕組みをいかに構築するかが議論されてきました。このまま社会保障費の膨張が続けば、たとえ消費税率を三十一・四十%に上げて

も国の財政は間違いなく破綻します。すなわち、社会保障と税の一体改革（診療報酬及び介護報酬の大幅な減少）は、医療に関わる者が好むと好まざるにかかわらず避けて通ることはできません。従って、医療法人の経営においては、国の政策の動向を知り、より大きな目的に合致したプロアクティブな行動が必須となります。私たちの「広」を誰もが「ほつと」する、そんな街にという願いをこめてつけた「広ほつとタウン」は、私たち医療法人社団和恒会が運営するトータルケア施設の愛称です。この小高い広の

丘の上で、様々な施設が連携しあい、補いあつて、精神疾患に苦しむ方や介護の必要なお年寄り、そしてそのご家族を応援して参りました。社会の高齢化が進むにつれ、介護の問題は単に家庭の中だけでなく、地域や社会で取り組むべき大切なテーマになってきています。私たちは、一九九七年の法人設立当初から、このような「広ほつとタウン」構想を掲げ、医療と介護、そして地域が一体となつてお年寄りを支えていく理想の実現に向けて、その環境整備に力を入れて参りました。

このような、和恒会創設者故森川龍一理事長の遺志を継いで、我々は、「子どもから高齢者まで、医療・介護が必要な状態になつても、できるだけ長く住み慣れた地域で暮らせるように」という全世代型社会保障の充実に向けて、「広ほつとタウン」をより一層深化・推進する必要があります。すなわち、ドミナントに残された時間を把握して、やりたい医療ではなく、地域に必要とされる事業を企画立案し、多事業、多職員、多職種のアウトカム重視のマネジメント能力育成を図らなければなりません。地域に必要とされる医療法人として存続するために**以下の事業**をすすめて参ります。

1. ふたば病院日本医療機能評価機構認定の更新
2. 認知症疾患治療病棟・重度認知症デイケア、認知症初期集中支援チームの在り方の検討
3. 地域に必要とされるふたば病院となるための病床機能分化企画・立案・運営
4. 介護老人保健施設パナケイア在宅復帰超強化型算定
5. 利用者・患者確保のための在宅事業部創設サービスニーズが急増する知的障害・発達障害事業への進出
7. 財務・事業計画・償却・管理会計・給与体系・診療情報の一体管理等事務部門の改革
- 管理会計・働き方改革を含めた会計・総務・庶務の効率化・透明化
- 働き方改革、人事制度・人事考課制度で働きやすい職場づくりと人材育成
- コスト削減・フューシリティマネジメント
- ホームページ、採用、ブランディング戦略、ワークシェア、キャリアアップ
8. ロボット・AI・ICT等の実用化推進
9. 外国人介護人材確保成事業推進
10. 組織力強化研修
11. 人事考課制度構築・運用・支援コンサルティング導入
12. キャリア段位制度を基準とした介護サービスレベルの底上げプログラム導入
13. 「自立支援介護」科学的介護「教育支援コンサルティング」導入

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。

二〇二〇年一月一日  
医療法人社団和恒会 理事長 織田 一衛



## 新年のご挨拶



あけましておめでとうございます。昨年のご挨拶で前年に次々と起こった災害について触れましたが、二〇一九年も異常気象とも言うべきとりわけ台風被害の恐ろしさを実感させられました。特に台風五号の暴風と豪雨による被害が甚大であった千葉県は状況がニュースで流されるたびに、一昨年の西日本豪雨災害を思い出さずにはいられませんでしたが、これらを教訓に、現在広島県において災害時における精神科医療体制の構築が検討されています。当院もしっかりと準備を進めてまいります。

精神科病院は様々な課題を突き付けられており、従来の入院医療中心から地域生活へのスローガンを具現化するために、病床削減そして病床機能分化が進められています。特に呉圏域ではこれから人口減少が進んでいくとされ、限られた地域でいくとされる中で、住み慣れた地域で可能な限り生活を継続できるようなシステムが求められており、当院も本当に必要なとされる精神科医療は何かということをごくからもしっかり考えていきたいと思っております。

「二〇一九年は「平成」から「令和」へと時代が変わった記念すべき年でもあ



りました。陛下が即位後朝見の儀で述べられた天皇として初めてとなるお言葉をテレビ越しに拝聴しながら、厳かさの中に新時代を迎えた希望をいただきました。さらに、自国開催となったラグビーワールドカップでは熱い戦いが繰り広げられ、日本の躍進に心を踊らされた方も少なくなかったのではないのでしょうか。「ワンチーム」の合言葉のもと、ベスト8という目標を見事に達成したことに感動を覚えました。医療介護の分野では社会保障費抑制の方向で進められており、取り巻く環境は年々厳しくなつてきていますが、「人生百年時代を見据えて、地域で適切な医療介護を安心して受けられる社会を、安定して持続可能なものにする」との目標の実現に向けて、当院もその一翼を担うことができるよう、そしてなにより地域の方に安心して信頼していただける病院づくりを目指して職員一同精進してまいりますと思っております。最後に、本年が地域のみならずそして当院にとりましてよい年となりますようにお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

ふたば病院 院長 高見 浩

## 明けまして おめでどう ございます



介護老人保健施設パナケイアは、今年四月で開設二十三周年になります。これまで当施設を支えてくださいました地域の皆様、利用者様、御家族様、地域の医療・介護・福祉関係の皆様にご心より御礼申し上げます。さて「介護老人保健施設」と聞いて皆様はどのような場所を想像されるでしょうか。パナケイアも所属している全国老人保健施設協会は「**介護老人保健施設の理念と役割**」を次のように提唱しております。

1. **包括的ケアサービス施設**  
利用者の望ましい在宅・施設生活をチームで支援する。
2. **リハビリテーション施設**  
生活機能向上のための維持期リハビリテーションを行う。
3. **在宅復帰施設**  
多職種からなるチームケアにて早期の在宅復帰に努める。
4. **在宅生活支援施設**  
在宅生活継続、介護予防のためのサービスを提供する。
5. **地域に根ざした施設**  
家族や地域住民と交流し情報提供を行う。

他の老健と同様にパナケイアにもリハビリテーション職（言語聴覚士、作業療法士、理学療法士）や介護職、医療職、栄養士、介護支援専門員、ケアマネージャー、事務職など多彩な職種や人材があり、利用者様やご家族様の御要望についてそれぞれの立場から専門的な意見を出し合い対応しております。また老健には介護やケアのみならずリハビリテーションや医療、認知症への対応、さらに看取りへの対応など多様な役目を期待されております。パナケイアはこの広地域にとつてどのような場所であるべきなのか、どのようなニーズがあるのかを考えながら、利用者様や御家族様、地域の皆様と向き合っていきます。本年も相変わらぬ御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

介護老人保健施設  
パナケイア 施設長

石井 孝二





# 新年明けまして おめでとう ございます

昨年、新天皇ご即位に伴い「令和」と改元され、新しい時代の幕開けとなりました。

和恒会がお世話させていただいております患者様にも、大正・昭和・平成を過ごされて尚お元気で、令和をお迎えになられた百歳を超える長寿の方もおられ、大変めでたくお慶びを申し上げます。

さて、当法人も例年4月には新入社員をお迎えし、一年を通して、新人教育をはじめ管理者研修や自立支援介護研修等、「業務の質」を向上させるための様々な研修に取り組んでまいりました。いうまでもなく、良質なサービスを提供するためには、人材確保と継続的な教育が必須です。

ところで、現在の社会問題である少子高齢化や働く人口の減少に伴い、人材確保はますます厳しい状況になってきております。そのため、私たちは、三年前より将来を見据えて、外国人介護技能実習生を受け入れる準備をしてまいりました。実際に現地に出向き、その国の歴史・文化・教育に触れ、それぞれの国により多少事情は異なりますが、どの国においても、技能実習候補生を直接面接し交



流する中で、彼らの日本の介護の仕事に就きたいという意欲と、将来に希望を持つ瞳の輝きには感銘するばかりでした。そのかいあつて、今春には、ベトナムおよびミャンマーからの技能実習生受け入れが実現することとなりました。患者様利用者様に安心して介護を受けて頂けるように、介護の技能、知識を現場でしっかりと教育してまいります。あわせて、技能実習制度の本来の目的である、母国への技能移転を通して実習生の将来が少しでも明るくなるように、職業人としてのマネジメント機能さらにリーダーシップ機能がはかれる人材に育てるべく努力してまいります。

今年、医療と介護と障害福祉サービスの一体的運営を目指す当法人の組織改革もあり、内部連携をさらに充実して、地域の皆様にご利用して頂きやすい組織に強化してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

ふたば病院 副院長  
兼 看護部長

川本 真弓



## 令和2年行事予定

- = 人事考課制度
- = 自立支援介護委員会
- = 組織強化セミナー



1月	互例会 自立支援介護委員会 (歩行ケア実施・認知症ケア理論) 組織強化セミナー 医師ソフト、電子カルテ更新	5月	自立支援介護研修 (おむつ外し・排泄ケア実施)
2月	自立支援介護委員会 (歩行ケア実施) 外国人技能実習生受け入れ 人事考課制度 役職者研修 病院機能評価受審に向けた委員会発足	6月	人事考課制度 (評価者研修：ケースワーク)
3月	自立支援介護研修 (歩行ケア実施) 外国人技能実習生受け入れ 人事考課制度 役職者研修	7月	自立支援介護研修 (おむつ外し・排泄ケア実施 及び常食化ケア理論) 人事考課制度 (評価者研修：面接、目標研修)
4月	入社式・辞令交付式 新人オリエンテーション 自立支援介護研修 (歩行ケア実施・おむつ外し・排泄ケア実施) 事務業務システム化 (法人経理課本稼働) 人事考課制度 本稼働 (人事考課制度 役職者研修)	8月	自立支援介護研修 (おむつ外し・排泄ケア実施 及び認知症ケア実施) 人事考課制度 (評価者研修：面接、目標研修)
		9月	自立支援介護研修 (認知症ケア実施)
		11月	病院機能評価 受審予定(更新)
		12月	忘年会

## 広報誌への ご意見・ご感想募集

「ほっと NEWS」へのご意見・ご感想を募集しています。住所、氏名、年齢、性別、ご意見・ご感想をご記入の上、下記宛先までおはがき、Eメール、またはFAXでお送りください。抽選でQuoカードをプレゼントいたします。

〈宛先〉

【ハガキ】〒737-0143  
呉市広白石4丁目7番22号  
医療法人社団 和恒会 統括事務局  
【Eメール】 futaba@wakokai.jp  
【FAX】 0823-70-0557

それぞれ「広報誌について」など  
用件をご記載ください。



## 医療法人社団 和恒会

〒737-0143 広島県呉市広白石4丁目7番22号

TEL 0823-70-0555

FAX 0823-70-0557

<https://wakokai.jp/>

和恒会

検索



ふたば病院  
介護老人保健施設 パナケイア  
高齢者複合福祉施設 ふたばの街  
特定施設入居者生活介護 ふたばハイツII  
短期入所生活介護事業所 ふたばの里  
訪問介護事業所 ふたば

居宅介護支援事業所 ふたば  
共同生活援助 ふたばの丘  
共同生活援助 さくらんぼ  
地域活動支援センター ふたば  
呉市川尻・安浦地域包括支援センター  
広島県認知症疾患医療センター